

第170期  
上半期

KOBELCOグループ

# 株主の皆様へ

2022年4月1日～2022年9月30日

証券コード：5406

<お知らせ>

- 来年度より株主総会資料が原則ウェブ化されます。書面で株主総会資料を受領されたい場合は、以下の当社ホームページをご参照ください。

<https://www.kobelco.co.jp/ir/stockinformation/stockinfo/index.html>



- 株主様見学会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、現在開催を中断していますが、今後の状況を勘案しながら、再開も含め検討中です。

株式会社 神戸製鋼所



# KOBELCOグループの「総合力」を活かし、これからも社会の発展に貢献し続けます。



株式会社神戸製鋼所  
代表取締役社長

山口 貢

株主の皆様には日頃から格別のご高配を賜わりまして厚く御礼申し上げます。

2022年度上半期の業績やトピックスなどをご報告いたしますので、是非ご覧いただきたく存じます。

## 当期の業績及び配当について

当社グループの当上半期の連結業績につきましては、自動車生産減少の影響を受けた素材系事業や、中国需要減少の影響を受けた建設機械事業における販売量の減少があったものの、各事業分野において販売価格が改善されたことなどから、売上高は前年同期に比べ1,974億円増収の1兆1,696億円、営業利益は前年同期に比べ270億円減益の197億円、経常利益は前年同期に比べ25億円減益の418億円となりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益は、前年同期に比べ65億円減益の280億円となりました。

2022年度の連結業績につきましては、自動車向け需要回復遅れなどによる素材系事業を中心とした販売量の減少や、エンジン認証問題に伴う建設機械事業における販売量の減少などを想定し、売上高は2兆5,300億円程度、営業利益は550億円程度、経常利益は700億円程度、親会社株主に帰属する当期純利益は450億円程度と見通しております。

当期の中間配当につきましては、今後の財政状況、業績の動向、先行きの資金需要などを総合的に勘案した結果、1株につき15円とさせていただきます。株主の皆様には、何卒ご理解を賜りたいと存じます。

## 中期経営計画の進捗について

当社グループは、昨年5月にKOBELCOグループ中期経営計画(2021~2023年度)を発表しました。

発表から1年が経過しましたが、総じて順調に進捗しているものと認識しております。

足もとでは、ロシア・ウクライナ問題に端を発する資源・エネルギー価格の高騰、サプライチェーンの混乱など、先行き不透明感が増している状況にありますが、中期経営計画で掲げた5つの重要課題を着実に実行していくことにより、安定的にROIC(投下資本利益率)5%以上を確保できる「安定収益基盤の確立」を目指してまいります。

また、長期的な課題である「カーボンニュートラルへの挑戦」に向けても、生産プロセスにおけるCO<sub>2</sub>

排出量削減と社会のCO<sub>2</sub>排出量削減貢献の両面から引き続き取り組んでまいります。

特に、製鉄分野でのカーボンニュートラル実現の鍵を握るのがMIDREX®プロセスです。

MIDREX®プロセスで生産された鉄源を使うことでCO<sub>2</sub>の排出量を低減した鋼材の生産が可能となり、本年5月には、低CO<sub>2</sub>高炉鋼材[Kobenable Steel]を国内で初めて商品化しました。

また、本年10月には、スウェーデンの製鉄会社H2グリーンスチール社より、世界初の100%水素直接還元鉄プラントを受注しました。今回受注したプラントは100%水素を還元剤として用いるMIDREX®直接還元鉄プラントであり、ほぼCO<sub>2</sub>排出量ゼロでの稼働が可能となります。あわせて当社は、H2グリーンスチール社への出資を決定するとともに、将来的なグリーンHBI\*購入に向けて協議を開始しました。

## KOBELCOグループの強みを象徴する「総合力」

当社グループは、幅広い事業領域をもとにした顧客基盤と21のコア技術による深い知見に基づいた高付加価値製品やソリューションを提供可能な、世界でも稀有な企業グループです。

自動車の軽量化・電動化における鉄、アルミ、溶接技術を組み合わせたソリューション提案は「KOBELCO」ならではの長所です。

製鉄プロセスにおけるCO<sub>2</sub>排出量削減以外にも、機械事業とエンジニアリング事業が有する経営資源の相互活用により、高砂製作所にて「ハイブリッド型水素ガス供給システム」の実証実験を来年3月頃から開始予定であるなど、カーボンニュートラルそして水素社会に向けた多様な用途への貢献を目指しております。また、昨年11月に完全子会社化した(株)神鋼環境ソリューションは、水処理関連事業・廃棄物処理関連事業及び化学・食品機械関連事業など様々な環境対応事業を行っております。本年8月には、DINS関西様など5社共同で提案した、国内初となる「廃プラスチックのガス化及びメタノール化実証事業」が、環境省「二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金 脱炭素社会を支えるプラスチック等資源循環システム構築実証事業」に採択されました。世界では海洋プラスチック問題が社会問題化するなど、環境保護の観点から



プラスチックのリサイクル方法確立の必要性が急速に高まっており、本事業はこれまで廃棄されていたプラスチックについて、ケミカルリサイクルによる資源循環システム構築を目指すものであります。

このように、グループの経営資源を組み合わせることにより社会的ニーズに応えるソリューションを提供できることは、まさに当社グループの強みである「総合力」のなせる業です。当社グループの競争優位性を高め、より一層、持続的成長の実現に磨きをかけたいと思います。

当社グループが持続的に成長するためにはまだまだ多くの乗り越えるべきハードルがありますが、当社グループはこれまでも常に組織や常識の枠にとらわれず挑み続けてまいりました。その成果が今日の幅広い事業領域、多様な技術、多くのお客様の存在であると考えております。

当社グループはこれからも、「総合力で社会課題の解決に挑み続ける」という使命に基づき、企業価値の最大化を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご指導とご鞭撻を賜りますとともに、当社グループをご支援いただきたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

2022年12月

\*: Hot Briquetted Iron(熱間成形還元鉄)の略。  
還元鉄はそのままでは長距離輸送に適さないため、還元炉より排出された高温の還元鉄をある程度の大きさの塊(Briquette)に押し固めたもの。

# 当期の概況

鋼材の販売数量は、自動車向けの需要が減少したことから、前年同期を下回りました。アルミ板の販売数量は、飲料用缶材向けの需要の伸び悩みにより、前年同期を下回りました。

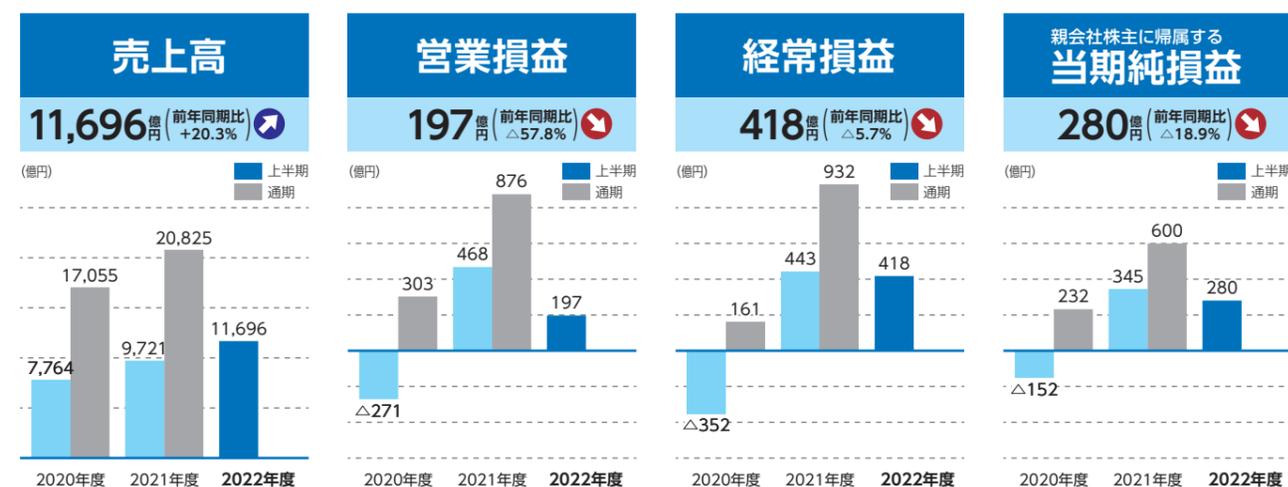
素形材の販売数量は、造船向け需要を取り込んだ鋳鍛鋼や一般産業向け需要が回復したチタンで前年同期を上回りました。一方、自動車向けの需要が減少したことから、サスペンション、アルミ押出、銅板、鉄粉は前年同期を下回りました。

油圧ショベルの販売台数は、インフラ投資の減退により需要が減少した中国での減少に加え、上海ロックダウンによる部品の調達不足影響を受けた日本や欧州

でも減少したことから、前年同期を下回りました。

この結果、当上半期の売上高は、前年同期比1,974億円増収の1兆1,696億円となり、素形材事業や建設機械における販売数量の減少、アルミ板や建設機械における調達コストアップの販売価格への転嫁遅れ、電力における燃料費調整の時期ずれを含む売価価格に関する一過性の減益影響などにより、営業利益は前年同期比270億円減益の197億円、経常利益は前年同期比25億円減益の418億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は建設機械で中国生産拠点の集約に伴う事業整理損を計上したことにより、前年同期比65億円減益の280億円となりました。

# 業績ハイライト(連結)



## 事業別売上高(2022年度上半期)



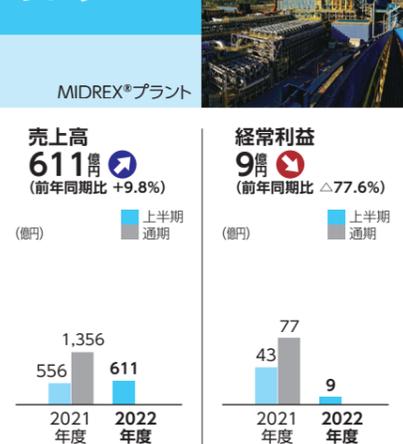
- 鉄鋼アルミ ..... 45%
- 素形材 ..... 11%
- 溶接 ..... 4%
- 機械 ..... 7%
- エンジニアリング ..... 5%
- 建設機械 ..... 15%
- 電力 ..... 12%
- その他 ..... 1%

(注) 上記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高等の消去額317億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額11,696億円となります。なお、各事業別の比率は、各事業の売上高の合計をもとに算出しております。

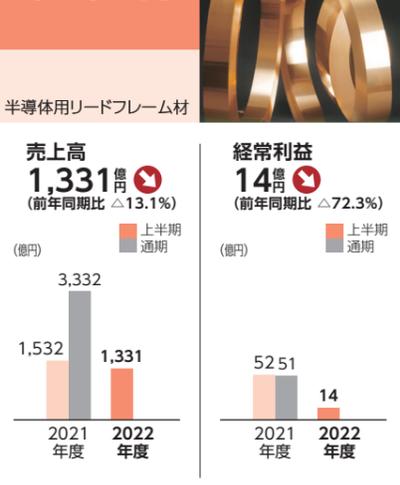
### 鉄鋼アルミ



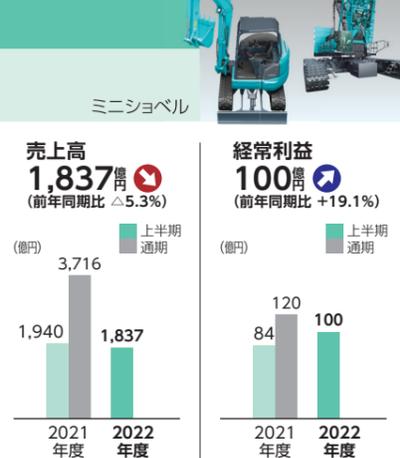
### エンジニアリング



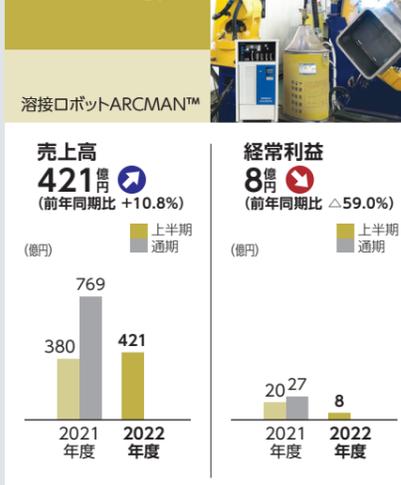
### 素形材



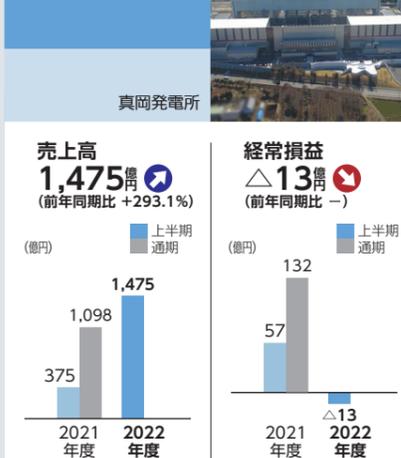
### 建設機械



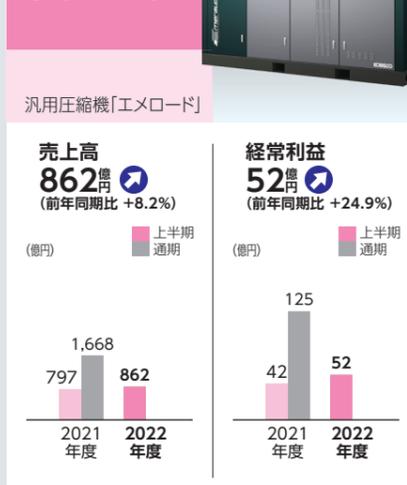
### 溶接



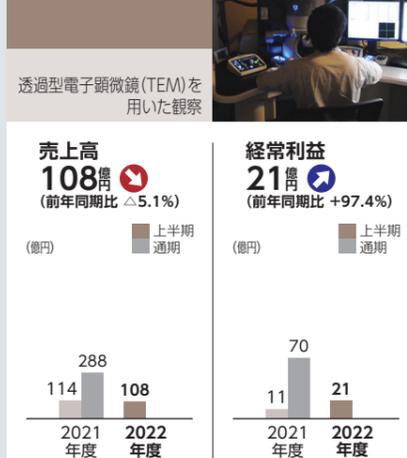
### 電力



### 機械



### その他



# KOBELCOグループ統合報告書2022を発行しました。

KOBELCOグループは、2018年度より毎年「統合報告書」を発行していますが、2022年度の統合報告書では、KOBELCOグループの「総合力」をキーワードに、事業部門の垣根を超えた以下の事例を紹介しています。ぜひご覧ください。



▶関連リンク

「KOBELCOグループ統合報告書2022」は、以下の当社ホームページにてご覧いただけます。

(QRコードを読み取っていただくと、以下のURLにアクセスできます。)

URL:[https://www.kobelco.co.jp/about\\_kobelco/outline/integrated-reports/index.html](https://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/outline/integrated-reports/index.html)



※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

## KOBELCOグループの「総合力」による 多様な技術・製品・サービスの創出

当社グループは、鉄鋼アルミ、素形材、溶接、機械、エンジニアリング、これらの幅広い事業の技術や製品を相互活用することで、

建設機械、電力といった幅広い分野で事業に取り組んでいます。当社グループ独自の価値をお客様に提供しています。

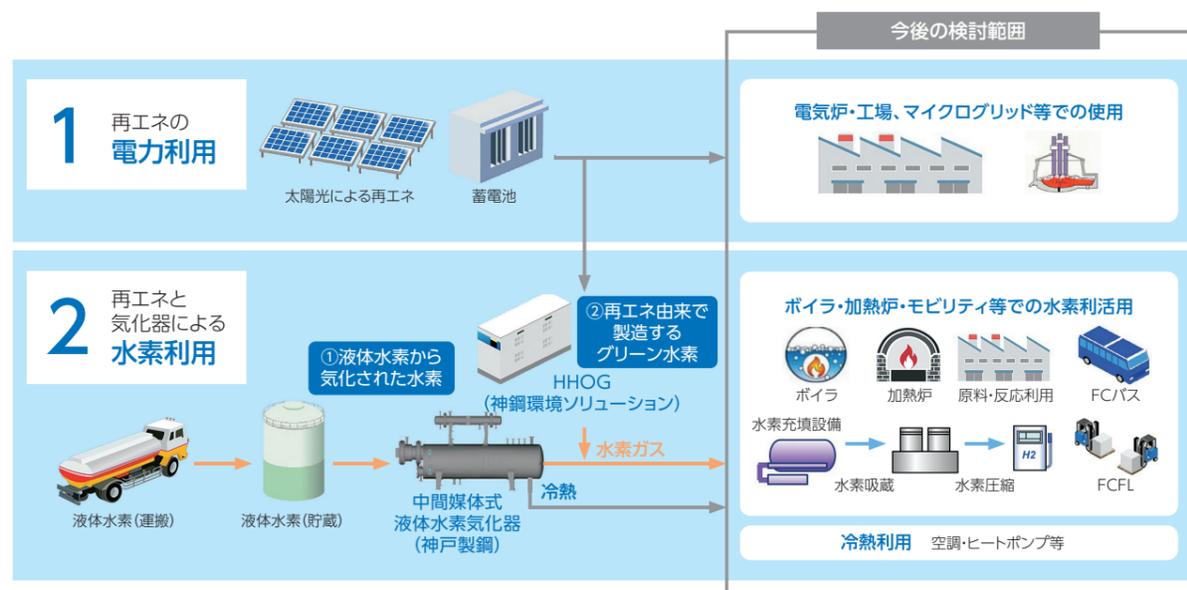
### ハイブリッド型水素ガス供給システムの実証



当社グループは、2050年のカーボンニュートラル達成に向け、「ハイブリッド型水素ガス供給システム」の実証試験を、2023年3月頃から当社高砂製作所内で実施する予定です。当社グループが提案するハイブリッド型水素ガス供給システムは、中小規模の事業者様にとって導入のカギとなる「安定かつ安価な水素づくり」に対するソリューションを提供するもので、当社グループが持つ右の3つの製品・技術より構成されています。今回の実証試験は、機械事業部門とエンジニアリング

事業部門の経営資源の相互活用並びに(株)神鋼環境ソリューションとの連携により、水素社会の実現に向けたソリューションを提供するものです。

- ①機械事業部門の気化器の要素技術を活かし開発中の極低温液化水素気化器
- ②(株)神鋼環境ソリューションの再生可能エネルギーを活用した水電解式水素発生装置
- ③エンジニアリング事業部門の技術資源がベースとなる“創る・使う”を監視制御する運転マネジメント



### 製鉄工程におけるCO<sub>2</sub>低減ソリューションに関する取組み



当社グループは、エンジニアリング事業と鉄鋼事業の技術を融合し、高炉工程でのCO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減できる技術の実証に成功しています。当社グループの2つのキーテクノロジーが今回の成果を生み出しました。

- ①エンジニアリング事業のMIDREX®プロセスによるHBI製造技術
- ②鉄鋼事業の高炉操業技術(高炉へのHBI装入技術、AIを活用した操炉技術、当社グループ独自のペレット改質技術)

### 低CO<sub>2</sub>高炉鋼材“Kobenable Steel”

この2つのCO<sub>2</sub>低減技術を商品化につなげ、当社は、高炉工程におけるCO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減した低CO<sub>2</sub>高炉鋼材“Kobenable Steel”として国内で初めて商品化しました(当社調べ。2022年5月17日時点)。この商品はCO<sub>2</sub>削減効果を特定の鋼材に割り当てる「マスバランス方式\*」を用いたものです。本商品は、従来と同じ高炉プロセスで製造したものであり、右の2つの特長があります。

\* 製品の製造工程において、ある特性を持った原料とそうでない原料とが混在する場合に、その特性を持った原料の投入量に応じて、製品の一部に対してその特性を割り当てる手法。製造工程やサプライチェーンの特徴により製品特性の分離が困難な製品に用いられています。



- <Kobenable Steelの特長>
- ①すべての鋼材品種での販売が可能
  - ②従来同等の品質を維持

同鋼材の当社グループ製品への展開についても検討(例 溶接材料)

YouTube KOBELCO officialチャンネル  
低CO<sub>2</sub>高炉鋼材「Kobenable Steel」  
[https://www.kobelco.co.jp/notices/1211016\\_15586.html](https://www.kobelco.co.jp/notices/1211016_15586.html)



▶関連リンク ESG説明会の開催

昨年度に引き続き、当社グループのESGの取組みをご紹介しますESG説明会を開催しました。説明会当日の音声データや質疑要旨も掲載していますので、こちらもぜひご参照ください。

URL:[https://www.kobelco.co.jp/ir/library/investor\\_meeting/index.html](https://www.kobelco.co.jp/ir/library/investor_meeting/index.html)



経営  
・  
その他

## 大阪大学と神戸製鋼所、「KOBELCO未来協働研究所」を設立



大阪大学と当社は、本年10月1日、大阪大学産業科学研究所（以下、阪大産研）に「KOBELCO未来協働研究所」を設立しました。阪大産研は基礎研究にとどまらず、研究成果を産業界や社会の変革に活かす取り組みを行ってきました。特に、AI

などのデジタル技術分野では世界トップクラスの実力を有しており、社会実装を通じたさらなる研究の深化を目指しています。一方当社グループは、DX戦略方針の下、幅広い事業分野で培ったデジタルソリューションを、社内適用にとどまらず社会課題の解決に広く活用したいとの想いを有しており、この両者の想いが一致し、今回の協働研究所設立に至りました。KOBELCO未来協働研究所では、阪大産研シーズと融合して、ものづくりの革新を行うためのソリューションを開発・社会実装し、広範な産業における課題解決を目指します。加えて、共創により新規事業を創出し、当社グループの企業価値を向上させていきます。

環境  
・  
社会

## 森の童話大賞が10周年を迎えました

当社グループは、2013年より次代を担う子供たちに、様々な自然の恵みをもたらす森を大切にすることを育んでもらうことを目的に、全国の小中高生から「森」をテーマにしたおはなしを募集する「KOBELCO森の童話大賞」を実施しております。皆さまのおかげをもちまして、今年度10周年を迎え、記念ホームページや、公式動画チャンネルの開設、シンボルイベントの実施など、1年を通して様々な企画に取り組んでおります。

わたしたちは「森と共に、これからもずっと」というコンセプトのもと、次の10年も皆さまに愛されるコンテストを目指してまいります。



<https://www.kobelco.co.jp/mori-ohanashi/10thanv/>

## 会社の概要 (2022年9月30日現在)

創立 1905年9月	株主数 197,120名	発行済株式総数 3億9,634万5,963株	従業員数 11,480名	資本金 2,509億3,003万3,900円
---------------	-----------------	---------------------------	-----------------	---------------------------

## 株式のお手続きに関するお問い合わせ先

株主名簿管理人・特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

当社株式に関する住所・氏名等の変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求及び相続などのご相談、お手続きは、以下にお問い合わせください。

お問い合わせ先 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
☎ 0120-094-777 (通話料無料(平日9:00~17:00))

※証券会社にお預けの当社株式については、お預けの証券会社にお問い合わせください。

※未受領配当金のお受取りのお手続きについては、三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。



この「株主の皆様へ」は環境に配慮し、漂白のために塩素を使用しない用紙、および植物油インキを使用しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。